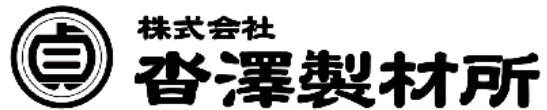


AKITASUGI

淡紅色の優美な色と香りの「秋田スギ」



秋田杉にこだわり続ける。

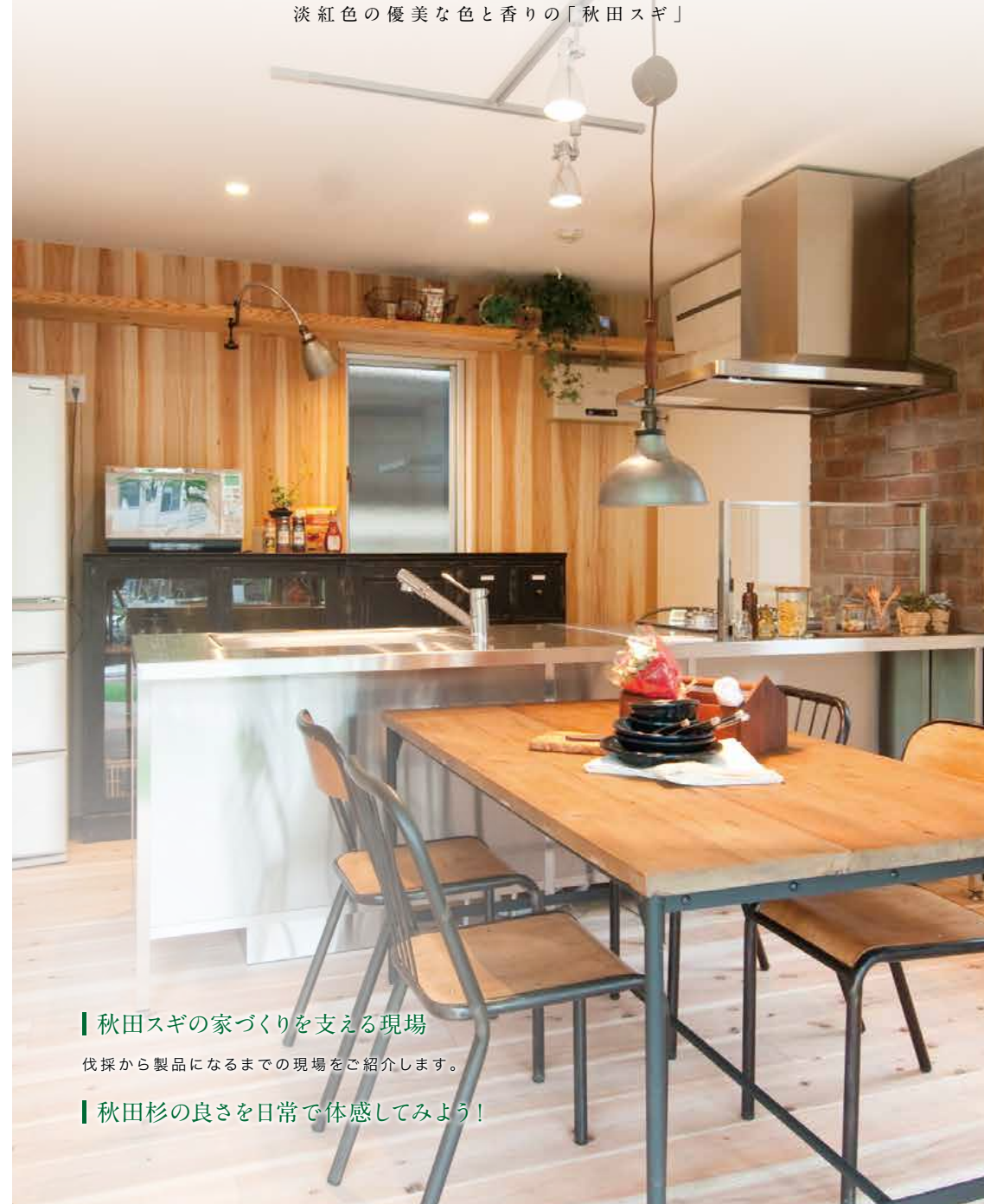


SINCE 1927

株式会社沓澤製材所 〒017-0012 秋田県大館市釈迦内字街道上154

TEL: 0186-48-3141 FAX: 0186-48-3142

製材JAS 認定工場(JLIRA-B・13・27)・人工乾燥(枠組壁工法構造用製材)
製材JAS 認定工場(JLIRA-B・13・08)・人工乾燥(構造用製材・造作用製材・下地用製材)
SGEC-CoC 森林認証工場 JIA-W040
合法木材認定 秋田県木通 第14号



秋田スギの家づくりを支える現場

伐採から製品になるまでの現場をご紹介します。

秋田杉の良さを日常で体感してみよう!

AKITASUGI

淡紅色の優美な色と香りの「秋田スギ」

私たちの生活を彩る うつくしいスギの魅力。

「木」が持つ本来の機能を皆さんはご存知でしょうか。古くより家は、木と人が触れ合う最も身近な場所であり、その機能を最大限利用し、木に彩られた豊かな暮らしがそこにはありました。近代化以降の工業技術の発達により、木の役割を代替するようになった工業製品は、家づくりを効率化し経済的な豊かさをもたらしました。

しかし現代に求められているのは、工業製品がもたらす豊かさではなく、木のぬくもりや香りももたらす、精神的な豊かさだといわれています。

私たちはその中でも「秋田スギ」を生産しています。家づくりの玄人が惚れる秋田スギ。その魅力をご紹介します。

INDEX

秋田杉の歴史	P3
秋田スギの特徴	P4
伐採から製品になるまで	P5
秋田スギ製品のご案内	P9
秋田スギのある暮らし	P11
秋田杉の良さを日常で体感してみよう!	P14

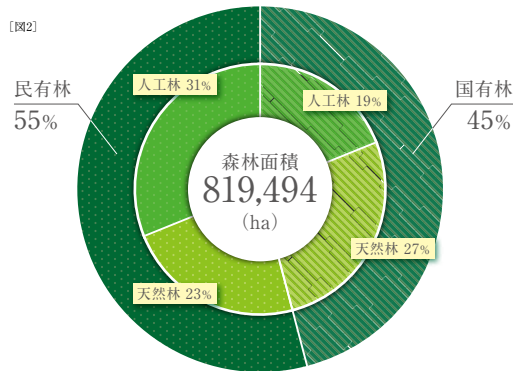
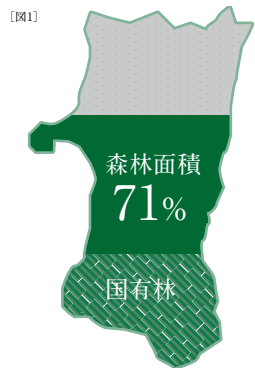
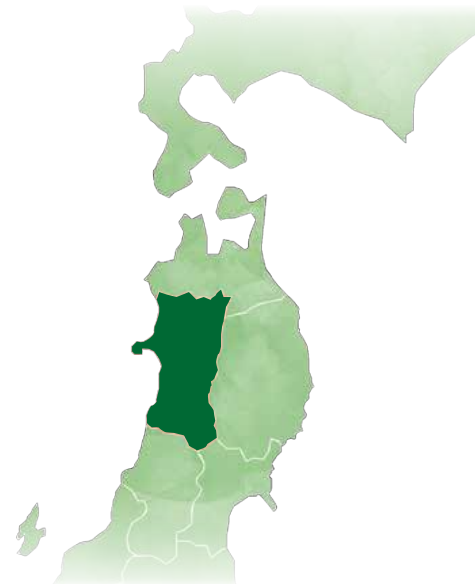
秋田杉の歴史

秋田県の林業と秋田杉

日本海にそそぐ秋田県の三大河川は、古くから舟運が盛んでした。舟運とは、舟で荷物を運んだり、人が行き来したりすることです。南の雄物川、子吉川は米が主体でしたが、米代川では木材と鉱石を主に舟で運び、「銅の道」と呼ばれていました。

秋田県は、森林面積が82万ha(26年現在)と県土の71%を占めています。[図1]このうち民有林が44万7千ha(55%)で、全国的にも国有林の占める割合の高い県だといえます。さらに、人工林面積の割合は、県全体で50%、民有林では58%となっており[図2]、人工林の大多数を占めるスギ林は間伐などの適正な保育管理が必要とされています。

世界遺産の白神山地のほか、森吉山や鳥海山など雄大で美しい自然を擁し、豊かな里山に彩られた本県の森林は、二酸化炭素吸収や土砂災害防止、水源涵養などの多面的機能を始め、バイオマス利用の面からも潜在的に大きな可能性を有しており、これを基にした新たなビジネスの創出や地域の活性化につながることが期待されています。



古くから愛された秋田スギ

「天然秋田杉」は古くから秋田県の米代川流域を主産地として成育し、能代市を中心に一大木材産業を築いてきたとされています。

1590年には豊田秀吉が、秋田地方の領主であった秋田氏らに命じて造船や伏見城建築のために秋田杉材を献上させたことにより、秋田杉が全国的にその名を馳せたといわれています。万葉集には、人が植えたスギについて詠んだ歌が掲載されており、このころ(飛鳥時代)すでにスギの植林が行われていたことがわかります。

現代語訳(大意)
昔の人が植えたであろう、その杉の枝に霞がたなびいています。
春が来たのでしょう。

秋田スギの特徴

心材(赤)

年輪の世代交代で成長を止め、眠りについた部分。眠るために成分を蓄え、耐久性、耐腐性に富む。水分量が少なく、淡麗なやさしい赤色が特徴です。

白線帯(移行材)

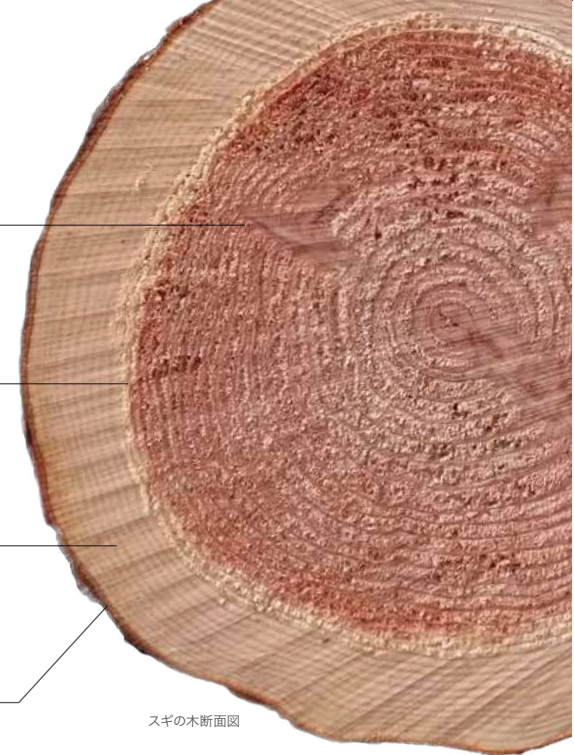
辺材から心材に移行した、最も水分を通さない部分。最大二年分の年輪でもあり甲付樽として重用される。赤身部分で作られる樽に比べて貴重とされています。

辺材(白)

心材のピンクと明るい白色とのコントラストが美しい。また木目が詰まった材として美しい造作として多用。成熟した部位が多く、強度が高い部材にもなります。

杉皮

木が立っている時に我身を守る、柔軟で強固な鎧。故に産業廃棄物として扱われることも多くありました。今はブルーベリー苗床、吸音断熱ボードで注目です。



スギの木断面図

秋田県は、東北地方の北西部に位置し、典型的な日本海型気候をしています。冬期は北西の季節風が強く、降水日数も多いのが特徴です。さらに降雪量は、内陸部に入るに従い多くなり、最深積雪の平年値は秋田市38cm、湯沢市89cmにもなります。

そんな寒冷地の厳しい環境で少しずつ育ってきた秋田スギは、木の成長が遅い分、年輪が詰り木目が細かくなります。さらには普通の杉に比べ、狂いが少なく、その美しい見た目から、木曾ヒノキ、青森ヒバとともに、日本三大美人に数えられています。

見た目の美しさのみならず、秋田スギは清純爽快な香りで構造的に強く腐りにくいという特性もあります。杉の香りは、フィトンチッドと呼ばれる揮発性の成分が含まれており、鎮静作用がはた

らき気分が爽快になったり、まるで森林浴をしているかのように心身共にリフレッシュしたり、やすらぎを人に与える効果があります。

さらにスギは、高い脱臭効果もあり、嫌な匂いを消し、杉本来の心地よい香りが全身を包み込み、リラクゼーション効果が得られ、疲労回復へと導いてくれます。

秋田スギをフローリングを使用することで、杉独特の温かさを感じながら冬でも裸足で過ごすことができ、快適な生活空間をお楽しみいただけます。

※天然林の杉を「天然秋田杉」、人工林の杉を「秋田スギ」と表記しております。



伐採から製品になるまで

01 | 伐採



一年で最も厳しい季節の冬。冬に伐採されたスギは水分が少なく、身が締まり、腐れに強いと言われています。また、原木搬出も雪で原木を滑らせて移動することが出来たり、雪を固めて重機が入りやすかったりします。何よりこの厳しい冬が、秋田スギを丈夫に育ててくれます。昔はチェーンソー、マサカリなどの手作業による伐採が多かったのですが、秋田県では最近高性能林業機械が増えて伐採量が飛躍的に伸びています。山での施業には、森林を構成する林木の一定のまとまりを一度に全部伐採する「皆伐」、育てようとする樹木どうしの競争を軽減するため、混み具合に応じて、一部の樹木を伐採する「間伐」があります。秋田県では、次世代のために間伐を多く進めています。また伐採するだけではなく、その後にキチンと植林することも大事です。

02 | 原木



山に育つ木は、大きさや太さが均一ではないので、伐採された原木が山や市場から入ってくると、径級(太さ)を揃えてある程度貯めておきます。均一化された製材品(工業化製品)の第一歩の為に、この径級を分けると同時に、品質確認すること(検収)も重要になります。

また、一本一本の「素材の持つ特徴を最大限に活かす」ということも重要になります。そのために、原木の皮を剥きながら、ある程度原木形状を読み取り、元(木の根の方)と末(木の先端の方)を選別します。皮剥ぎ段階で元と末を分けることにより、次の製材工程ではスギの自然な方向に逆らわない、より良い製品づくりが可能になります。

また、形状が均一化し一連の後工程がスムーズになります。

03 | 製材

皮剥ぎされた原木の径級を揃えて工場内に搬入します。径級を揃えることで、製材歩留や効率が上がります。これは自動送材車付帯鋸盤です。この製材工程を大割と言います。なぜなら大きく割るから…です。

この大割工程は非常に大事です。その後の製品歩留や品質を大きく左右する一番最初の製材工程です。丸太の状態を木材を買い付けるので、カットするまでその丸太の木目の美しさはわかりません。つまり、目利き力が明らかになる瞬間でもあります。あらゆる情報と外側の状態から想像して買い付けをし、切ってみて初めて木材としての価値がわかるのです。

オペレーターが原木形状や良点欠点を瞬時に読み取り、回転させながら最適な木取りにセットし製材します。



戦後、長期にわたり、天然秋田杉を原料として高品質材の生産を主体に事業展開が出来た秋田の製材業界ですが、近年の天然秋田杉の減少とスギ人工林の充実という地域資源の変化を背景に、天然秋田杉の後継材であるスギ人工林を活かした一般材製品へ転換してきました。日本一と言われた天然秋田杉のお陰で、日本一とも言われた秋田の製材と木材加工技術を受け継ぎながら、自動化によるコストダウン、人工乾燥や仕上加工などにもチャレンジし、フローリングや内外装材、建築現場に即した製品など高付加価値化にも取り組んできました。より良い製品をお届けするために、夏の暑い日も、冬の雪降る寒い日も、スギを活かきするプロフェッショナルを目指しています。

04 | 天然乾燥

原木から製材したばかりの木材製品は、まだまだ水分をたくさん含んでおり、「生材(なまざい)」と呼ばれる状態です。天然乾燥とは、棧木を入れて整然と木材を並べて置き、日陰に干しておく方法で、自然の温度、湿度、風で乾燥させます。天然乾燥した木材には、人工乾燥では抜けてしまう樹脂分を残すことができ、美しい色つやに仕上がります。



05 | 人工乾燥

木材を高温の乾燥庫に入れ、2~3週間ほどで適度な含水量にまで乾燥させることができ、十分な寸法安定性を得られる方法です。生産効率が高く経済的で、現在流通する乾燥材の大部分がこの人工乾燥材です。

また乾燥の為にボイラーに、杉皮、木屑を燃料として投入し、スギ材のすべてを利用する地球にやさしい乾燥方法なのです。



06 | 製品加工・塗装



乾燥が完了すると、製品加工の工程に進みます。今は寸法をデジタルで指示することが出来るので製材も非常に楽になっています。どんなに楽になっても、最後に品質を担保するのはやはり人間になります。人の手で、寸法、乾燥、節、欠点などを規格に基づいて選別格付し製品を完成させます。



塗装 _____ ▽



完成 _____ ▽



2010年1月、マイホームをもつ
親子で開口ワークスを建てる

取材協力：(公財)秋田県木材加工推進機構/大館北秋田森林組合/鹿角森林組合
(敬称略・順不同)

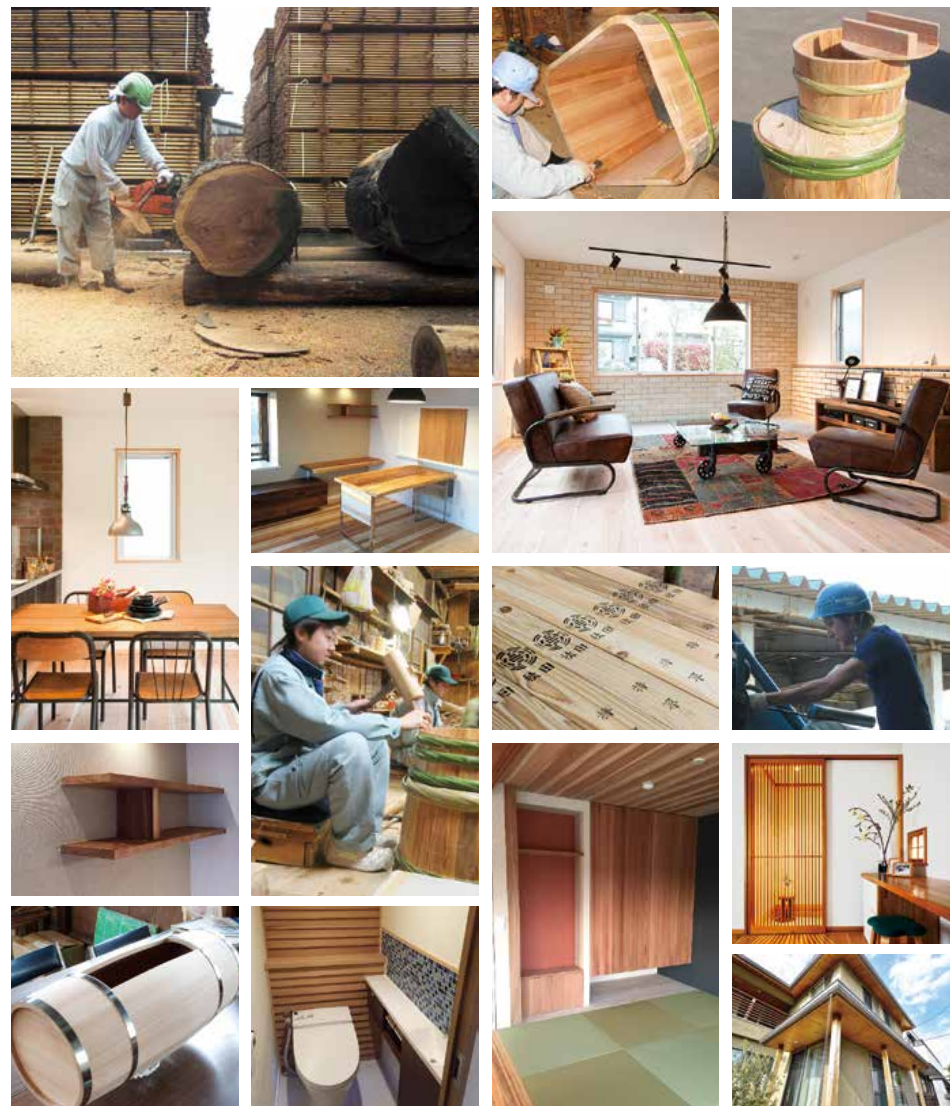
製材と桶樽業を両立する日本で唯一の木材加工会社

沓澤製材所は製材業と桶樽製造を両立している企業として全国的にも貴重な存在となっています。桶樽製造は1927年創業からの90年以上継続しており、現在も、練達した職人から若手への伝統技術の継承を行っている。桶樽製品の販売先は、北は北海道から南は岡山県に至り、修理や竹タガ編みなどの依頼にも対応しています。製材が主力となったのは戦後からで、昭和37年に株式会社組織となり現在に至ります。桶樽業の技術を活かし製材業では付加価値の高い製品づくりとその普及とともに秋田スギ一般材の需要拡大の貢献が評価され平成25年に内閣総理大臣賞を受賞しました。



Photo 丹精込めて作られた、身のまわりにある秋田スギ

沓澤製材所は、秋田杉の主産地として全国に名高い米代川流域に位置し、山林経営から製材品・壁面材・人工乾燥材・内装材・桶・樽及び花器・小木工品まで生産・製造する秋田杉製品の総合メーカーです。



秋田スギ製品のご案内

沓澤製材所では、時が経つにつれ趣を醸し出す、自然素材を使った家づくりを応援しています。「自然素材」って、私たちの五感に優しく語りかけてくれると思いませんか？木の香り、土の癒し、石の肌触り、レンガの温かみ。目で見ても、触れて、香りを愉しむ——家に帰ってきた喜びを全身で感じられる素材たちは、住む人に安らぎをもたらしてくれます。それが、沓澤製材所がご提案したい家づくりです。その中の秋田スギを是非使って頂きたい商品をご案内します。



フローリング

クリやナラなどの広葉樹系のフローリングに比べ、針葉樹のスギはやわらかい樹種になります。やわらかい反面、傷がつきやすい面もありますが、肌触りがよく、合板フローリングに比べ温かさを感じるのが特徴です。仕上がったばかりは、うつくしい淡紅色のスギですが、永きに渡って使用して頂くことで、日焼けや生活で出来たキズによって住むほどに味わいが増します。経年変化も楽しみのひとつです。



階段材・階段手すり

肌ざわりの良い秋田スギは、階段材だけではなく、直に手に触れる階段手摺にも使用することをお薦めします。是非、日々の階段の上り下りにその手触りの気持ち良さを感じて下さい。



内部造作材

巾木、廻縁、窓枠などはもちろんのこと、ちょっとした飾り棚などお客様の要望に合わせてお選び頂け、フローリングと併せて使用して頂くなど、空間全体でのコーディネート提案が可能です。

FAQ

Q.花粉症なのですが床にスギ材使って大丈夫ですか？

A.大丈夫です！花粉症は「花粉」が原因ですので、木材は関係ありません。

むしろスギ等の無垢材を使うと花粉症が楽になるという報告もあるくらいです。無垢材はその調湿効果から静電気を帯びにくい性質があります。ホコリや花粉が静電気で引き寄せられることなく、室内に蓄積するのを防ぎます。一方で、調湿効果のない合板フローリング等は、静電気も起こりやすく、花粉を吸着させてしまいます。



カウンター材

リビング脇のスタディコーナーや、造作洗面カウンターやキッチン前の配膳カウンターなど様々な生活シーンや用途に合わせて、ご提案致します。



内装壁・パネリング

ビニルクロスとは違い、内装材として使うことで、秋田スギ本来の香りや優しい木目の雰囲気を楽しんで頂けます。また、調湿・脱臭作用もあるので、洗面所やトイレなど湿気や臭いの気になる空間にもオススメです。



ロフト階段

ロフトに上がる階段スペースを有効活用した商品です。組立式の箱型家具なので、ロフト階段以外にも様々な使い方が可能です。



軒天・破風材

屋根をデザインする軒天材・破風材にも秋田スギ材を選ぶことが出来ます。ひと味違ったうつくしい外観デザインを生み出す要素になります。

秋田スギのある暮らし

実際に秋田スギの家で暮らすE様宅へ伺い、生活者の生の声をいただきました。

「家が趣味」というご夫妻。お二人とも建築・住宅関係のお仕事をなさっているがゆえ、家づくりには相当なこだわりがあった模様。

秋田スギのある暮らしをお聞きました。

01 | オーナー様 E様(横浜市)

E様ご夫妻が家を建てる際、コンセプトとして掲げられたテーマは「自然に寄り添った家」です。人工的ではなく自然に近いかたちで作りたという願望がありました。そこで選んだのが無垢材。

「経年変化」が大好きという奥様。色合い・形の変化、キズまでもが味になっていく様、成長具合が美しく、均一でなく常に変化していく秋田スギに魅力を感じていらっしゃいます。

旦那様も、年老いて玄関から出る際、違和感のない家がいいという要望がありました。お家とともに自然に年を重ねていく、「家とともに生きる」そんな暮らしが秋田スギにはあります。

「家とともに生きる」
スギのある暮らし。



スギの家は
人にやさしい。

木材の香りの成分には、リラックス効果以外にも、アレルギーを引き起こすカビやダニを抑制する効果もあります。また大理石と比べて2~3倍の衝撃吸収能力が高いとされており、転倒などによるけがの防止につながります。



冬でも裸足で歩ける
自然とあたたかかな家。

「一軒家を建てる際、一番心配だったのが室温調節です。エアコンやストーブといった機械的な空調器具が苦手」という奥様。屋内にはPS暖房(放射冷暖房システム)を導入しました。無音、無風で塵が舞い上がらないため、小さいお子様にも安心・安全というメリットに加え、無垢材との相性もバッチリです。

デザインや色味といった見た目の相性はもちろん、秋田スギの暖かさをより一層深めます。冬でも裸足で生活をしている奥様は、他の素材の床に長時間立つと、頭がくらくらしてくると言います。

想像以上にあたたかく、柔らかな秋田スギの上では、お家に招いたお客様も、知らず知らずのうちに裸足になっているそうです。自然とあたたかくなる家。今後はお友達を大勢呼んでホームパーティーができればいいなと嬉しそうにおっしゃっていました。

国産材を家づくりに、日常に、使って頂きたい理由。

国産材を利用して森の健康を守る

森林は、二酸化炭素の吸収のほか、地下水を豊かにするなどの水源のかん養、土砂災害の防止、木材・キノコ・山菜といった林産物の供給、保健休養の場の提供など、私たちにあって欠かせない役割を果たしています。しかし現在、我が国の森林、特に人工林で、林業の採算性悪化から、手入れが行き届いていない箇所が見られます。手入れを行わないと、木立の間に日光が差し込まず下草が生えないなどにより土壌が失われたり、土砂崩れの原因となったりします。また、適切な伐採が行われないと、新しい木が植えられず高齢の木々ばかりとなり二酸化炭素の吸収量が低下するなど、森林の持つ多面的機能の低下につながってしまいます。そのような状況において健全な森林に育てていくためには、国産材

の木材(国産材)を積極的に使うことが重要です。

そこで、日本の森林(人工林)を元気にするために、「植林」→「育成(間伐などの手入れ)」→「(成長した木を)伐採」、そして「国産材を利用する」というサイクルを回していくことが必要となります。

それによって、健全な森林の育成とともに住みやすい環境と資源を持続的に得ることができます。そのためには、人工林で育った国産材を、私たちがもっと利用することが必要です。

木を植える、育てるだけでなく、私たちの生活に適切に利用することも、私たち一人ひとりができる地球環境保全活動なのです。

沓澤製材所こだわりの桶樽商品(抜粋)

01 いずし桶



秋田の「はたはずし」、北海道の「魚(い)おずし」、金沢の「かぶらずし」、滋賀の「ふなずし」など全国の「なれずし」を漬ける桶としてよく利用されています。沓澤製材所の「いずし桶」は天然秋田杉をふんだんに使用し何度も使える頑丈な造りとなっております。業務用はもちろんのこと、ご自宅でも本格的な「いずし」を楽しみたい方へ、樹齢100年以上の天然秋田杉を使用した「いずし桶」を是非お試しください。

02 味噌桶



天然秋田杉で接着剤不使用の味噌桶を作りました。側、底板は樹齢100年以上の天然秋田杉で耐久性高い赤身材のみ使用。側板は米糊で接着。京都産の竹を組みタガで締上げました。蓋は樹齢60年以上の秋田杉、錆びにくいステンレス釘、米糊を使用。米糊もカビ難い様に自然素材を特殊配合し、底外部は腐れ難い様に柿渋を三回塗りました。味噌作り、ぬか漬けなど本物の手作りを求める方には是非お勧め致します。

03 おひつ



天然秋田杉のおひつは「あつあつ」のご飯をよそっておいでも 炊き立てのおいしさが長持ちし、また、ほのかな杉の香りを楽しめます。素材には厳選された樹齢100年以上の天然秋田杉を使用し、さらに大変貴重な赤味部分の柎目だけを使用しています。杉の赤味部分の優れた抗菌性、防カビ性によって、ご飯をおいしく長持ちさせることができます。

秋田杉の良さを日常で体感してみよう!

Point 01 | 沓澤製材所の桶樽

樹齢100年以上の天然秋田杉を使用した製品です。天然秋田杉は、日本三大美林(青森ヒバ、木曽檜、秋田杉)のひとつで、芳醇な香りでありながら刺激が少なく、食用器や容器の素材として古くから利用されています。当社では大変貴重な天然秋田杉の赤味部分を用いており、抗菌性、耐久性に優れています。高樹齢の天然秋田杉は年輪の幅が狭いため以下のような利点があります。

- 1.木目が美しい
- 2.強度に優れている
- 3.材料伸縮が少なく狂いにくい

また、当社の酒樽・いずし桶は竹タガで締める上げる伝統技法に則った製作を続けており、木の食器・容器として素材を大切にできた秋田の伝統が生きています。



Point 02 | 経年劣化ではなく、経年美化!



秋田杉が持つ香りや肌触りの良さや、柄・ふし・割れ・そりの違いも無垢材ならではの季節ごとの室内の快適性や、入った瞬間にふわりと香るにおい、素足に触れたときの感触など、感じてほしいことがたくさんあります。桶樽製品では時間が経つにつれ趣を醸し出す、自然素材を使った美味しい食生活を体感出来ます。秋田スギ製材品も桶樽製品も、年月が経過するにつれ高級な骨董品のように、熟成を感じさせる色の変化も無垢材ならではの味わいです。実際に手や足で触れて、その良さを感じて下さい!

詳しくはHPをご覧ください。

「沓澤製材所」

沓澤製材所は、秋田杉をふんだんに使った、人にも環境にも優しい新商品にもチャレンジしています。

興味ある方は下記で検索どうぞ

くつぎわせいざいしよ

検索